

平成 28 年度 津久井養護学校 学校評価

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月8日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①キャリア教育の視点で小学部から高等部まで学習内容の系統性を整理し、教育課程を再編成する。 ②児童・生徒のニーズに合わせた、コミュニケーション能力の向上を支援する。	①キャリア教育の視点で授業内容を点検し、小学部から高等部まで系統性のある教育課程編制を行う(日課表の見直し等を含む)。 ②ICT機器を活用したコミュニケーション支援を推進する	・キャリア教育の視点をおさえて授業づくりシート、振り返りシートを活用する。 ・授業研究実施と参観体制、方法の整備を行う。 ・系統性のある教育計画の管理・検証・整理を行う。 ・日常生活や授業でICTを活用したコミュニケーション支援を進める。	・授業づくりシート、振り返りシートをどのように活用することができたか。 ・授業研究実施と参観体制、方法の整備ができたか。 ・系統性のある教育計画の管理・検証・整理はどのように行えたか。 ・日常生活や授業でICTの活用は具体的にどうであったか。	授業づくりシート、振り返りシートを活用し、改善点を見つけ、次の授業に活かすことができた。他学部の参観があまりできなかった。系統性のある教育計画として各学部の教育課程を見直している。校外学習等の事前学習他にてICTの活用が行えた。	授業研究の教職員参観があまりできていないので、授業ビデオを活用したり、参観できるように体制を再度見直す等、検討して行く。引き続き教育課程について課題をあげ、検討して行く。コミュニケーションツールとして今後もICTの活用を進める。	【評議員】 教職員が明るい印象があり、アンケートを見ても大多数の方が満足されていると感じている。 「良い点」を伸ばす指導が大切だと思う。今のシステムを大切にして改善を進めていく取り組みを今後も行ってほしい。	キャリア教育の視点に立って一人1回の授業研究に取り組む事ができた。振り返りシート等の活用により、授業内容を点検し、系統性のある教育計画として各学部の教育課程が見直している。ICTの活用について、各学部が積極的に推進し、特にiPadの活用についてコミュニケーションツールとしての活用が進み、各授業で様々な工夫がなされた。	授業研究の教職員参観体制等の検討が必要。授業ビデオの活用や学校全体の体制整備を再度見直す等、研究・指導グループを中心に検討して行く。新学習指導要領を見据えて教育課程について課題をあげ、検討して行く。ICTについての活用を今後も進め、特にiPadについての教材や授業での活用方法など、今後も検討して行く。
2 児童・生徒 指導・支援	①児童・生徒一人ひとりの多様なニーズに応える支援教育を組織的に推進する。 ②専門職と協働できるシステムを構築する。	①個別教育計画の内容を改訂し、具体的な学習内容に反映した学習評価を行う。 ②個別教育計画の組織的な策定と活用(専門職との協働の視点)をすすめる。	・授業に活用できるように、整備を行う。 ・活用しやすい書式について引き続き検討する。 ・自立活動教諭が参画し、アセスメントの読み取りを中心に助言を行うことをシステム化する。	・学習のねらいと方法を明確にして、授業に活用することができたか。 ・次年度に向けて新書式の提案ができたか。 ・自立活動教諭が参画し、アセスメントの読み取りを中心に助言が行えたか。	学習のねらいと方法を明確にして、各教科の目標、年間指導内容の見直しを行い授業改善をすすめることができた。自立活動教諭の参画によるアセスメントについて、活用がうまく機能しない面が見られた。	教員のアセスメントについての読み取りに課題が残った。各教員がアセスメントを活用した個別教育計画の作成が円滑にできるように、年度当初にアセスメントに関する研修を行う。活用する手立ても各学部と運営Gが連携する。	【評議員】 18歳の選挙年齢に伴って選挙に関する学習も大切になってくる。 【保護者】 細やかな指導が行えており、保健の先生も配慮が行き届いている。	学習のねらいと方法を明確にして、各教科の目標、年間指導内容の見直しを行い授業改善をすすめることができた。 個別教育計画作成時に、自立活動教諭および相談担当が参画し、アセスメントの読み取り等を中心にした助言のシステム化については課題が残った。	今後も具体的な学習内容に反映した学習評価について検証して行く。 教員のアセスメントについての読み取りに課題が残ったため、年度当初にアセスメントに関する研修を行う。活用する手立ても各学部と運営グループが連携して取り組む。選挙についての学習の取り組みを進める。
3 進路指導・支援	①小学部から高等部までの一貫性のあるキャリア教育を推進する。 ②児童・生徒の実態や地域性に合わせきめ細かく配慮した進路支援・相談の充実を図る。	①将来の生活をイメージしたライフキャリア教育に基づく授業改善をすすめる。 ②地域特性を活かした作業学習や校内実習を検証する。	・各学部の授業において、具体的にライフキャリア教育に基づく授業改善をすすめる。 ・地域資源を活用した作業学習、校内実習、現場実習を実施し、検証する。	・各学部の授業において、具体的にライフキャリア教育に基づく授業改善が進んだか。 ・地域資源を活用した作業学習、校内実習、現場実習を実施し、検証することができたのは具体的にどのようなことであったか。	買い物学習や公共交通機関の利用など、将来の生活をイメージしたキャリア教育に基づく授業づくりが行えた。自治会館での実習や近隣施設の清掃等を通して働くことの喜びを感じ、実践的な力を身につけた。	各教科について、ライフキャリアの視点をおさえながら目標を決め、シラバスづくりを進める。作業学習や校内実習を通して、地域との連携を広げていくための具体的な方法について検討する。	【評議員】 様々な賞や早期に進路先がすべて決まる等、良く取組んでいる。 【保護者】 自立に向けた指導において、実年齢に合った指導や身につけるべき社会性を大切にし、指導を充実させると良い。また、今後も進路について、丁寧な説明をお願いする。	小中学部では、買い物学習や公共交通機関の利用など、将来の生活をイメージしたキャリア教育に基づく授業づくりが行えた。高等部においては自治会館での実習や近隣施設の清掃等を通して働くことの喜びを感じ、実践的な力を身につけた。	小中学部において、引き続き将来の生活をイメージした授業づくりを行う。高等部においては、各教科について、ライフキャリアの視点をおさえながら目標を決め、シラバスづくりを進める。作業学習や校内実習を通して、地域との連携を広げていくための具体的な方法について検討する。社会性を身につける指導について、上記から再度検討して行く。また、保護者への説明も引き続き丁寧に取り組む。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月8日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①共生社会の実現を目指し、地域と連携したインクルーシブ教育を推進する。 ②センター的機能を充実発展させ、地域へ情報発信する。	①インクルーシブ教育推進の基礎となるよう、地域の学校との交流及び共同学習をすすめる。 ②センター的機能として、相談支援活動や具体的な教育活動を発信する(障害者スポーツ教室や余暇支援について)。	・学校間交流、居住地交流を含め、交流および共同学習を具体的に進め、交流形態や活動内容を検討する。 ・教育活動の発信として、障害者スポーツ教室やダンス教室等を行い、地域等との協働を推進する。	・学校間交流、居住地交流を含め、交流および共同学習を具体的に進め、交流形態や活動内容を検討できたか。 ・教育活動の発信として、障害者スポーツ教室やダンス教室等を行い、地域等との協働が進んだか。	地区交流会や居住地交流が行え、相手校との丁寧な打合せや校外学習に参加する等、活動の幅を広げた。 障害者スポーツ教室を3回、ダンス教室を2回行うことができ、校内外の保護者や地域の方々が来校された。	今後、相模原市の小中と協力し、インクルーシブに向けた取組みとして居住地交流をさらに深め、副次的籍を検討して行く。 引続き障害者スポーツ教室、ダンス教室を行い、地域協働やセンター的機能を充実する。	【評議員】 津久井地域の居住地交流や学校間交流は、とても充実していると感じている。 今後も相模原市教育委員会等との連携を深め、より発展して行くことを期待している。 【保護者】地域に開かれた学校や特色のある教育活動について詳しく知りたい。	学校間交流会や居住地交流が行え、相手校との丁寧な打合せによるねらいの共有化が行えた。また、校外学習に参加する等、活動の幅を広げた。 障害者スポーツ教室を3回、ダンス教室を2回行うことができ、校内外の保護者や地域の方々が来校された。	今後もインクルーシブ教育推進の基礎となるよう、地域の学校との交流及び共同学習をすすめるとともに、相模原市と交流教育の実証研究に取り組む。 次年度も障害者スポーツ教室、ダンス教室を行い、校内外の保護者や地域の方々に発信し、交流の場を充実させる。 取組み内容について、保護者へ情報発信や説明を行う。
5	学校管理 学校運営	①教職員の専門性向上を推進するための校内システムを構築する。 ②保護者、地域と協働した、安全で安心な学校運営を行い、地域に向けた発信力の向上を図る。	①職員の教職経験や能力を活用した全員参加の授業改善に取り組む。(教え合い・学び合い・語り合える授業改善) ②地域・保護者への情報発信を丁寧に行い、具体的な防災活動に取り組む。	・チームで授業ミーティングを行うことや授業検討、参観、振り返りにより、ねらいを明確にし、具体的な手立てを探る授業づくりを行う ・防災だより、HP等による発信や地域の防災訓練への参加、情報交換を行うことにより、丁寧な情報発信、情報交換を行う。	・チームで授業ミーティングを行うことや授業検討、参観、振り返りにより、ねらいを明確にし、具体的な手立てを探る授業づくりを行うこと ・防災だより、HP等による発信や地域の防災訓練への参加、情報交換を行うことにより、丁寧な情報発信、情報交換を行うことができたか。	児童生徒の実態等の共通理解や授業改善について取り組むことができ、取組む意欲を高める教材づくりや指導の工夫等が行えた。防災だよりを2回発行し、HP等による発信を行い、地域の防災訓練への参加による情報収集が行えた。また、災害後を想定した引き取り訓練が行えた。	チームで検証して行く授業改善を今後も行う。研究授業の反省会や付箋でのアドバイス等について今後も工夫する。担当者同士で授業についての検討ができる体制作りを行う。防災について今後積極的に発信するとともに災害後の引き取り訓練や宿泊訓練等を実施して行く。	【評議員】 津久井養護学校は教職員が明るい印象があり、教職員同士が話しやすい環境ができていていると感じる。 【保護者】 先生方の電話や相談対応が丁寧で感謝している。 防災活動については、これからの検討材料だと思う。地震、降雪などでの孤立対策、住民の受け入れなどさまざまな問題について意見交換ができると良い。	児童生徒の実態等の共通理解や授業改善について取り組むことができ、取組む意欲を高める教材づくりや指導の工夫等が行えた。防災だよりを2回発行し、HP等による発信を行い、地域の防災訓練への参加による情報収集が行えた。また、災害後を想定した引き取り訓練が行えた。	チームで検証して行く授業改善を今後も行う。研究授業の反省会や付箋でのアドバイス等について今後も継続し工夫して行く。担当者同士で授業についての検討ができる体制作りを行う。 防災について今後積極的に発信するとともに災害後の引き取り訓練や宿泊訓練等を計画し、実施して行く。 PTAともさらに連携し、想定される災害後の対応等、保護者の方と意見交換や協力体制など確認して行く。